

氏名：山本彩乃

留学先：ハンブルク大学

1月になると、期末試験が近くなり、勉強する時間が増えてきました。それと同時に、今までドイツ語と一緒に学んできたクラスメート達との別れも近くなってきました。ようやく仲良くなってきてのお別れなので、つくづく半年間の留学は短すぎると感じています。今回の報告書では、ドイツでの年越しと、学習面について報告していきたいと思います。

- ドイツでの年越し

日本の年越しといえば、親族と一緒にお蕎麦を食べるなどを静かに粛々と行いますが、ドイツは違います。ドイツでの年越しは、友人たちと一緒にパーティーをして過ごす人が多いです。私も、タンデムパートナー達のパーティーに誘われ、一緒に年越しをしました。パーティーにはそれぞれが自分の友人たちを呼んでいるため、初めてお会いする方もいましたが、皆さん優しく、その場に溶け込めることができました。食事は各自持ち寄り、鍋やグリルなどを食べました。ある程度満腹になると、テレビをつけて、みんなでカラオケを楽しみました。ドイツでカラオケするといえば、自宅のテレビやスクリーンで YouTube の字幕付きの歌を映し出し、歌うというスタイルになります。（一様ハンブルクにもカラオケボックスがあるというのを、他の留学生から聞いたことはあるのですが、私はまだ行ったことがありません！）流石日本学科の学生というべきか、日本の歌も知っている人もいて、一緒に歌いました。

新年に近づくと、急いで飲み物を全員に注ぎ、新年になったと同時に乾杯しました。その後はすぐに外にでて、みんなで花火を



します。ドイツの新年は、日本の静かな、鐘がなるだけのものではなく、四方八方から花火の爆発音が聞こえます。外に出るとどこを見渡しても花火が見えます。ドイツの花火は打ち上げ花火や、手持ち花火などももちろんあるのですが、それよりも爆竹の種類が日本よりも豊富だと感じました。日本でもおなじみのネズミ花火のようなもの、大・中・小の爆竹、火薬を直接投げつける爆竹、色々あります。私も爆竹に挑戦したりとても楽しかったのですが、ふと、こじんまりとした線香花火が恋しくなっていました。

その日は友人の部屋に泊まり、次の日に寮へ帰ることにしました。年明けのドイツを歩くと、どの通りにも花火の残骸が散乱しています。スーパーの駐車場や寮の前にも容赦なく花火のごみが放置してあり、久しぶりにカルチャーショックのようなものを感じました。こんなに散乱



していたのに数日後にはきれいになくなっているのだから不思議です。

● 試験

私は語学の授業しかとっていなかったのですが、1月の第4週目あたりにテストが集中して行われました。複数のテストが連続して執り行われたのですが、文法などの範囲はかぶっているものが多く、そこまで切羽詰まってしまうことはありませんでした。単語はそれぞれ範囲が違うので、語学勉強用のアプリなどを駆使して電車など移動中に勉強していました。(因みに私のおすすめアプリは「Anki」と「Quizlet」です) 期末試験の次の週にも授業があります。そこではテストが一時的に返され、みんなで答え合わせや、先生に質問することができます。日本では答え合わせの授業というのはあまりないと思うので少し新鮮でした。自分の間違ったところや、わからなかった単語を再確認することができるので、テスト後の復習に役に立ちました。

いよいよ留学生活もあと1か月となりました。2月は長期休みを利用して、様々なところに旅行に行きたいと考えています。海外暮らしに少し慣れて、あと1か月で帰国するというものあって少し気が緩んでしまっているのを、もう一度引き締めなおして、油断せず無事に過ごしていきたいです。